

# 障がい者スポーツを支えたい

札幌市障がい者スポーツ指導者協議会・三浦淳事務局長に聞く



三浦 淳さん

◀ ボッチャの面白さを体験した「やってみよう楽しいスポーツ！ふれてみようおもしろいパラスポーツ！2021」の参加者

▼ 同イベント・車いすバスケットの体験で競技の説明を受ける参加者

障がい者スポーツへの関心が高まっています。一方で障がいのある人がスポーツにふれあい、打ち込むには、バリアフリー環境の整備や、サポートする指導者やスタッフなど、周囲のさまざまな支援が必要です。一般社団法人・札幌市障がい者スポーツ指導者協議会の三浦淳事務局長(68)に、北海道の障がい者スポーツの状況や、ボランティアとしての関わり方などを聞きました。

## ■資格持つ指導員が道内約900人

東京2020パラリンピックで実施されたボッチャや車いすバスケット、車いすラグビー、ブラインドサッカー、フライングディスクを体験する「やってみよう楽しいスポーツ！ふれてみようおもしろいパラスポーツ！」が10月24日、札幌市南区の市立札幌みなみの杜高等支援学校体育館で開かれました。

同協議会などで行う実行委員会が主催。障がい者やパラスポーツに関心を持つ若者、親子連れなど80人が参加し、対戦者が各6球のボールを投げて目標球にいかにか近づけるかを競うボッチャの面白さや、車いすラグビーのぶつかり合う迫力などを体験しました。



「札幌市障がい者スポーツ指導者協議会は、日本パラスポーツ協会が認定する障がい者スポーツ指導員でつくる団体です。2015年に設立し、障がい者スポーツの普及や競技団体・競技のサポート、指導員の技術向上などの活動をしています。10月に実施した障がい者スポーツと触れ合うイベントは、設立以来、毎年開催をしている主要な活動です」

道内には北海道障がい者スポーツ指導者協議会に所属する「札幌市」「道南地区」「道北地区」「道東地

## 寄付のお願い

認定NPO法人ランナーズサポート北海道では、北海道のランニング文化の健全な発展やスポーツボランティアの拡充のために、企業・団体・個人からの寄付を募っています。2013年7月に認定NPO法人となったことで、税制上の優遇措置が受けられるようになりました。寄付をしていた個人は所得税と住民税、法人は法人税が減額され、納めた税

金の一部が戻って来ます。いずれも当NPO法人の発行する領収書を所轄の税務署に提出して申告する必要があります。クレジットカードによる寄付もできます。

詳しくはランナーズサポート北海道ホームページ <https://runsupport-h.org>の「寄付のお願い」の項目をご覧ください。